

## 第5次広島県障害者プラン素案に対する意見

### ① 「重点施策Ⅰ 障害への理解促進」について

○取組の方向1「子供の頃からの理解促進」(資料1P3)

・昨年、あび隊は小学校に11校32クラスに出動しましたが、とても大切な観点だと感じています。指標に、学校に対する出前講座の実施回数が、現時点(R5.3.31)7回→目標値(R11年度)49回とあり、大変嬉しいことですが、あいサポートの予算の増額も合わせてお願いします。

・「障害者が困っている時手助けしたことがある」を高めるためには、あび隊は必ず入れますが、障害特性の説明に留まらず、小・中・高校生に具体的な対応を考えてもらうようなカリキュラムを取り入れることが大切だと考えます。

○取組の方向2「バイアスの解消に向けた取組」

バイアスという言葉がどれだけ一般的な言葉になっているのでしょうか?「バイアス(偏見等)」と説明を加えてください。県民の誰が読んでも理解されやすい表記をお願いします。

○いじめや差別、虐待のない安心して生活できる社会になってほしいです。

○P.13(2)地域で支え合う体制の整備

「障害者を支える人材が不足し」⇒「人材が減少する中でも、相互に支え合うという地域共生の考え方も踏まえ」

【理由】障害者相互の支え合い、障害のある人がない人を支えることもできるので、地域で支え合う意識醸成、体制づくり、障害の有無に関わらず誰もが担い手になりうるという考え方が必要。

○P.14~15 子供の頃からの理解促進

・「現状」に、次の事実を踏まえ加筆できないでしょうか。

市町社協は、福祉教育に取り組む小・中・高校をモデル指定し、教科に位置づけて校内や地域での体験学習を交えながら、子どもたちが高齢者や障害がある人等や地域の生活課題に気づき必要な行動ができるよう、地域の構成員としての主体性を引き出す取組を行っている。(素案では高校における社協と連携した取組として記載されている)

・「取組の方向性」に次の趣旨を加筆できないでしょうか。

子どもたちは、大人が地域で取り組む福祉活動に参加することで地域の大人から学び、大人は子どもから新たな気づきを貰い、障害を理解し行動できる地域づくりにつながる。

○P.20 権利擁護の推進

「県社協は市町社協を実施窓口として」⇒「県社協は市町社協と役割分担して」

【理由】本人・市町社協・県社協の三者契約により支援しており、実施窓口という表現がそぐわないため。

○取り組みの中に、「啓発活動を積極的に取り組んで成果を上げている先進事例を紹介し、それぞれの地域(市区町村)で積極的に啓発活動に取り組むように推進していく」という文言を入れていただきたい。

○さまざま啓発活動への取り組みは高く評価します。

○学校行事 授業に入れる、ヒューマンフェスタでの啓発もとても良い効果的な事と思いますが、イベント化している感があります。

○行って満足!でなく、次につなぐものが見えてきていない気がします。

○障がいは特別なことではなく、自分自身にも起こりうることを考えるきっかけ作りが大切。

○施設等の訪問は、特別な場所というイメージを抱いてしまうこともある。

○知的障害や発達障害は、本人が気づいていないことも少なくない。

○考えるきっかけ作りは、学校で教諭と専門職等の連携によって行われる。その上で、施設等の訪問や交流に繋がっていく仕組みが大切だと思われま

## ② 「重点施策Ⅳ 地域生活の支援体制の構築」について

○課題【(2) 地域資源の効率的な活用】(資料2 P4~P5)

⑤支援が難しい障害者に対応するための人材…とありますが、その前に「強度行動障害等」を入れてください。表の下の取組にマッチして良いと思います。厚労省では、昨年度「強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会」が行われ、対応について踏み込んだ検討をされています。是非お願いします。

○取組の最後の○(拡充)について

とても良いと思いますが、県内の市町の格差が小さくなるように、自立支援協議会の機能を促進し、特に支援体制が進んでいない市町と県の自立支援協議会の連携強化を是非お願いします。

○(指標) 地域生活支援拠点等の整備市町数について

目標値が増えるのはもちろん大切ですが、中身の体制が市町のニーズを満たしているのか、自立支援協議会や当事者団体に確かめる等の検証をお願いします。

○3 相談支援体制の構築 (3) 専門的・広域的な相談支援 (P.79) において、口腔の健全な発達・育成に係る相談、専門医療機関への紹介体制についての視点が欠けているのではないのでしょうか。1次医療機関や広島大学病院、広島口腔保健センターとの連携も含め、相談支援事業として体制を構築する必要があるのではないかと考えます。

○必要とする福祉サービスは、住む町や障害の程度に関係なく平等に利用できるようにしてほしいです。

○どこの福祉サービス事業所を利用しても同じサービスが受けられるようにしてほしいです。

○私たちは働くことで社会参加を進めていきたいです。働く場所と働きやすい職場環境をつつてください。

○将来は地域で一人暮らしをしたいので、グループホームのサテライト住居の利用を考えています。サテライト型が利用できるようにふやしてほしいです。サテライト型はとても期待していますが、年数のしぼりなく困った時にはいつでもサポートをしてもらえる制度にしてほしいです。

○P.77 地域共生社会の実現に向けた重層的支援体制の構築

・「取組の方向性」に次の趣旨を加筆できないでしょうか。

障害のある人たちが主体となって、当事者会や家族会、支援住民やボランティアと共に、地域の生活課題を解決するための担い手となってもらえるような取組が必要。

・これまで福祉の対象者だとされていた人たちが地域の構成員としての自身の役割を認識でき、出番につながるような機会を意図的に作り出す取組が必要。

【理由】地域共生や社会参加の視点から。

○【(2) 地域資源の効率的な活用】において、県内の地域自立支援協議会の取り組みを共有し、地域生活支援拠点等(システム)の整備に向けて、市町の障害者住宅入居等支援事業(居住サポート事業)の実施状況の公開及び課題の整理と広島県居住支援協議会の積極的な連携を行い、親亡き後のことについても安心できる仕組みを作っていくことを盛り込んでいただきたい。

○今後、少子化の影響で介護・福祉分野の担い手である専門職への希望は、減少することは避けられない。社会の多様な働き方につながるように、他職業分野からの参入が可能なように仕組みを考えるべき。資格取得促進のための補助制度など。また、転職だけでなく、兼業も可能にするなど、柔軟な対応ができる人材交流が求められる。限られた福祉人材にならないような仕組みが必要だと思われます。

### ③ その他（本文に係る意見等について）

#### ○3 情報の保障の強化（資料 P37～P43）

この内容について見る限り、視覚障害向けと聴覚障害向けしか見られません。しかしながら、現状に記載されている「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」はすべての障害者を対象としており、現に知的障害児者・発達障害児者は、情報の取得や利用に困難を来しています。ICT の利用が難しい人が多く、ルビを入れる他に分かりやすい文章にすることが必要です。第6期広島県障害福祉計画の「わかりやすい版」はとても好評でした。他に、「行政窓口における丁寧で平易な表現を用いた対応」といった取組が求められます。「現状」において、身体障害以外の障害児者に対しても情報アクセシビリティが保障されるべきことを記載し、「課題」において、身体障害以外どうなのか、できていないならその原因や問題点を分析すべきと思います。そして「取組の方向性」において、それらを解決するための具体的な施策を示していただきたいです。

○全体を通じて、専門性を求められる歯科医師・歯科衛生士に係る「口腔ケア」の文言については、「口腔健康管理」とした方がいいものと考えます。（P.49 73 74 80）

○障害のある人たちが災害や地震などにあつた時のために、わかりやすい防災マップ、標識、表示などの情報と対策方法を教えてください。

○公共交通機関のバリアフリー化の推進をお願いしたいです。

#### ○P. 87 福祉のまちづくりの推進

ハード面のバリアフリーについての記載のみとなっているが、ソフト面の心のバリアフリー、心配りについての記載はないのでしょうか。ソフト面は「障害への理解促進」に分離？

#### ○P. 93 災害対策の強化

「取組の方向性」に次の趣旨を加筆できないでしょうか。

被災した障害や認知症等のある人やその家族が避難所において不適応や重度・重症化しないよう、広島DWA Tの研修企画に当たっては当事者会や家族会と連携した取組を進める。

#### ○P. 98 NPO、ボランティアとの協働

「災害ボランティアセンター」⇒「被災者生活サポートボランティアセンター」

【理由】これが正式名称。土砂かきや家具の運び出し等の作業だけに目が向きがちだが、被災世帯の生活再建のためには、個々のニーズに応じた生活支援が欠かせないことを踏まえ、この名称としている。

○「障害」→「障がい」「害」の字をまだ使用しているようでは、考え直しが必要ではありませんか？

○私も人権擁護委員を12年間やらせていただきましたが、世の中はあまり変わっていないような気がしています。

個人情報保護法により、真実がわかりにくくなっているのでは…。

折角素晴らしいプランを作成されているのですから、平場に降りた一般者と直接につながる活動になっていけば…と思います。